夕刊
磐城新聞
四月一日發行
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇六五八五番

天氣豫報
小名濱測候所觀測
今晩は北西の風晴時々薄曇
明日は北東の風曇

童話 海の恩人（四）

「あ、船だ、船が見える。おーい、小父さん、皆おいでよ、船だ、船だ」

萬次郎は岩の上に躍り上りました。

「何、船、どれ、おゝ船だおーい」

「おーい、おーい」

五人は聲を揃へて近づいて來る船を呼びました。寅右衛門は着てゐた着物を脱いでそれを振りました。五右衛門はたゞわあ〈泣いてしまひました。

間もなく船はとまりました。今まで皆が見たこともない大きな船でした。船からボートが下されました。ボートは島に近づきましたか、波が荒いのと、海岸が切立つてゐるので近づけません。萬次郎は着物を脱ぐとそれを頭に結びつけてドブンと飛び込みました。つゞいて後の四人もドブン、〈〈〈〈。

やがて五人は本船に助け上げられましたが、この船といふのは、アメリカノの捕鯨船でジョンホーラン號といふ船だつたのです。長さ三十間、巾六間、帆柱三本、これに數十張の白帆がつけられます、舷側には八艘の端艇が備へてあり、乘組は三十四人、大砲が二門劍銃三十丁、貯藏室には多くの食品があり、又や牛豚數頭を飼つてあります。その上に鯨から取る油を入れる油槽が六千個も積んであつたのです。

船に連れて來られましたか、言葉が分りません。船長らしい人が來てニコ〈笑ひながら何か言ふのですか、さつぱり分りません。萬次郎はつと前に出て「お腹がすいてゐるから何か食べさして下さい」と手眞似で言ひました。船長はすぐ部下に命じて食物を五人の前に並ばせました。漂流以來半年振りで見る御馳走です皆は嬉しさうに泣きながらいただきました。

三日五日と經つ中に五人の身體もどうやら元のやうに元氣になりました。萬次郎は敏早くからせつせとお手傳をしました。船長は、の眞面目な氣持のよく働く萬次郎の姿をいつまでもうれしさうに見てゐました。馴れるにつれて言葉もどうやら少しづつ分つて來ました。五右衛門は、グットモーニングといふ言葉を一つ覺えて晝でも晩でもそれを使つて喜んでゐました。しかし萬次郎はそんな事ではすましません。三十四人の船員の間をまはつて次から次へアメリカの言葉を教へて貰ひました。

海南島
蘇峰 德富猪一郎

或る時
伊谷澄子

○吾が病ひ長びくなべにみいくさのちかにひゞく世は遠くなりし
○逆境にしづけく生きし母を病みていよいよ吾が戀ひまつる
（闇のなか母の魂寄りくると病むも殊更にせちに想ふる
○病み疲れし母の愛ひをつくづく今の病む身に思ひ到らぬ
○闘病に倦み果てし時願ひし事たはやすからず死といふものは

檣上風高夜色幽
香瀉南去水悠々
金蛇一道掣天末
應是東坡謫處州

4月2日
△童話の大家アンダーセン生る（一八〇五）△ゾラ生る（一八四〇）△靖國神社新合祀者氏名發表（昭和一三）

〈その街〉

○
嫁ぐ人のピアノの上や櫻草　高子

恩讐無道（おんしうむどう）（64）
久我荘多郎 作　香川三十代 畫
―天の巻―
乘合馬車（十）

「折角の御親切を無にし申譯ありませんが、わたしに、これ以上のことは中上げられないのですお孃さんワドソン氏には、よろしくお傳へ下さい」

嘘のいへない惣介であるとわかつて居るだけ、メリーにも依田にも、なほもと押し付ける言葉はないのだつた。

「あたしたち親子に、出來ますことがあつたら……」

と、メリーは、口馴れない日本語で、さういつた。さびしく、肩を落としてゐるメリーである。心やさしく、ほろりとしてゐるのだ。

横から、依田が、

「まつたくだ。深見君。ワドソン氏にしろメリー孃もあんたを、日本に於ける唯一無二の知己だと考へて居らしる。だから、何事も遠慮なく……」

「有難たう」

惣介は、眞底から一禮した。

食事を濟まして、三人は天狗樓を出た。

「それでは……」

と、別れ際にもまだ、メリーは、

「フカミさん、お困りのことがありましたなら、ほんとに……」

名殘りのやうに、繰返してゐた

二人に別れて、深川へ歸る惣介の胸は、あかるく開けてゐる。何がなし、心は浮き立つのだ。

そこにふさはしい、のどかな春の晩だ。吹く風、やはらかい。

元氣のいゝ足どりは、白鬚と道づれて、いつの間にか、水郷の風もまま やかな深川へ、いつしか

不意、惣介は行手を遮つた者がある。

突然だつたので、惣介はギョッとした。

永代町のさびしい川端で あたりに、材木置場のならんだ、人どほりもないところだ。

惣介を取卷いたのは、四人の屈強な男たちで、いづれも獲物には手ごろな、三尺ばかりの丸太を持つて居た。

一瞬、ギョッとしたが、[illegible]

例[illegible]

四人の男たちを見廻して、

「わたしを誰だか御存知か？人違ひをしてゐるんぢやないのか」

「なにをッ」

四人のなかの一人が、すぐ答へた。

「知つてらあ。てめえは乘合馬車屋の惣介ッてんだらう」

「さうだ。その深見惣介に違ひないが……」

「乘合馬車屋には、數々のみ怨のある俺たちなんだ。さ、觀念しろッ！」

「待て――解せない話だ。わたしに、どんな怨みがあるといふのか？」

四人の男たちは、いきり立つた

「白ばくれちな。てめえ、俺たちを知らねえッてのか 俺たちア日本橋の、駕籠の身內だ。てめえが先からへんな馬車を引づり廻して來やアがるもんだから、珍らしがり屋どもア、俺たちを見向きもしねえ。てめえのお蔭で、俺たちの顎が乾上つてるんだ」

はゝあ――と、惣介に頷けた。

この男たちは、日本橋一帶を繩張りにしてゐる駕籠屋である。御一新以來駕籠屋の廢れたことは話に聞いてゐたし、げんに、惣介が毎日の屯りにしてゐる日本橋附近に、根城を持つた駕籠屋たちが自分に不穩な目を向けてゐることも知つてゐた。

だが、

「（これは場違ひな怨み言だ）

惣介は、ふッと笑つた。途端に、男たちは丸太をふるつて、打つてかゝるのだ。

「待たんか。御時世なら仕方がなからう。これ、待たんか」

右に左に丸太を避けながら、惣介が叫んだ、男たちの耳へははいらないのか、彼らは、遮二無二襲つて來る

文部省習字科檢定委員
國定書方手本筆者
鈴木翠軒先生御選定
◎愛國筆　金拾錢ヨリ 金參拾錢マデ
◎翠軒先生用筆　金二十錢ヨリ 金五圓マデ
特約販賣店 平市才士小路 魁文堂 電話313番

看護婦―及見習
看護婦募集
共ニ經驗ノ有ル方ヲ望ム
植田町本町 前田醫院 電話一二四番

晝夜診療
外科一般 內臟外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
平市新川町〔電四六四〕
〔內診檢查每日〕
◎入院隨時
醫學博士 北川芳夫

事務員、技工招聘
小林齒科醫院
診療所〔仙臺市東一番丁七番地 仙臺市鐵砲町二五一 電話三二七六番〕
◆御希望の方は書面御照會を乞ふ

醫學士 吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番

メガネ專門の店

メガネは絶對信用ある當店に
先づ御相談下さい…………
平市本町二丁目 玉屋

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
（1部10セン）
…お取次致して居ります…
（平2） 西村藥局 （電3）

聖戰下のプレゼントに
パイロット萬年筆

御祝の記念文字彫刻無料
タヲレテモ コボレヌ インキ總呈
平市特約店 佐々木商店 電話二三三番

高久病院
平市田町（電話五三一番）
內科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹勝雄
（看護婦至急募集）

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

此度組織を會社に改め營業の充實を圖ると共に統制下にある吾等は國策に順應して御得意各位樣に精々御便宜を計るべく社員一同努力仕るべく候間倍舊の御引立を御願申上候
鐵棒、平鐵、しやふと
鐵管、各種レール類
新品中古入荷仕り候間精々御注文相願度尚諸機械類各種取揃へ御來駕を御待申上候。　敬具
海軍工廠御用達
(SK) 合資會社 平銅鐵機械商會
平市鍛冶町九〔電話五二二番〕
電略（イ） 又ハ（イ七）
振替東京一五七五二二番
倉庫〔平市鍛冶町卅三番地 平市鍛冶町九番地〕

平病院（平市元共濟病院跡 電話六四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
內科 小兒科　院長 鈴木定藏
內臟外科 一般外科 皮膚泌尿器科　副院長 高橋俊幸
レントゲン科 物理的療法科　院長 鈴木定藏
藥劑科　部長 吉本孝平
……診療時間…… 每日午前八時ヨリ午後九時迄、夜間診療ニ從事ス（急患ハ此ノ限リニアラズ）

中等學校
國防色外套……大特賣
高嶋屋の洋服
男女學生服 新入荷
注文並ニ既製品
高島屋
平市二丁目 電話三八六番

新車のお知らせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
三七年型フォード
入車いたしました。
是非！御試乘の程を！
市內四丁目
スヾキタクシー 電二一七番

大河內整骨院
平市才槌小路四
大河內寅男

銃後の保安陣強化
平警防團けふ結成
第一校庭で緊張裡に擧式

銃後の保安強化、新生平警防團の結成式は今一日午前六時から第一小學校に於て國歌齊唱、宮城遙拜、默禱、知事（代理箱崎保安課長訓辭、本田署長同上辭令傳達、團員代表關内團長宣誓、祝辭（青沼市長、聯隊區司令官代理藤田中尉、野崎市會議長）の順序で擧行、萬歳三唱七時半式を了つた、團長以下幹部顏ぶれ次の如し

（市本部）團長關内正一 副團長鈴木彌太郎 同大間喜繁 第一分團長山崎忠兵衛 同副分團長阿部傳六 第二分團長野崎喜八郎 同副分團長内木宗八 第三分團長松本金一郎 同副分團長鈴木利一 警護部長安齋勝美 同副部長塙正勝 防毒部長關内榮助 同副部長小野弘 救護部長清水辰政 同副部長星恒明 交通整理部長白土喜伯 同副部長高崎晴明 工作部長堀江新太郎 同副部長藤井時康 配給部長金子重次 同副部長五十嵐茂 避難所管理部長草野喜一 同副部長馬場武太郎 消防（水防）部長三井富吉 同副部長織田萬次郎（第一分團内）消防部長阿部章 同副部長姪田清 警報部長石坂一雄 同副部長關内庄中 燈火管制部長鈴木良平 同副部長中野勇雄（第二分團内）消防部長水野壽雄 同副部長小島一郎 警防部長猪狩正成 同副部長石川榮燈 燈火管制部長柏原光太郎 同副部長古川太郎（第三分團内）消防部長渡邊賢司 同副部長大山忠平 警防部長高荻盛男 同副部長金成行綱 燈火管制部長加澤直隆 同副部長鈴木寛

被表彰者並に感謝狀受領者左の如く尚は防護團の解散によつても從來の家庭防空群は依然存續、今後は益々その擴大強化をはかり警防團と協力防衛陣の完璧を期する方針である

△表彰－四家久米治（仲町）石坂鑑太郎（田町）川角寅吉（長橋町）木澤常松（古鍛治町）阿部傳六（材木町）加藤正保（櫻町）國井一美（新川町）石川榮（五丁目）内木宗八（大町）草野喜一（四丁目）山崎元三郎（南町）國府田忠男（上平窪）

△感謝狀－篠山廉、千葉右近、赤津千里、松崎金松、志賀豐吉、渡邊三平、鈴木寛、新家芳美、小野若松、藤田覺、金子金治、鈴木龜治、班長以下三十五名、指導藤田榮助

郡部團長顏ぶれ
人選に當局苦心の跡

郡部團長も左記の如く決定人選に關し當局苦心の跡歴然たるものがある

小名濱高木保、四倉金成岩吉、植田坂本龜太郎、江名黑川喜一郎、湯本渡邊長作、勿來赤津一、泉佐藤清治、渡邊永山定秀、錦正木治郎兵衛、山田秋山誠之、川部鈴木長治、上遠野上遠野武松、入遠野櫛田武美 内郷沼田濱之助、飯野鈴木秋元、夏井木田森之助、高久本間喜榮、豐間遠藤專、鹿島志賀直哉、玉川宮内久枝、磐崎瀧德也、好間大河原茂平、赤井樫村富保、神谷草野多四郎、草野吉田多喜雄、大浦渡邊周平、川前赤山忠二、田人外二ヶ組合油屋盛太郎、永戸箕輪組合阿部友睦 澤渡三坂組合大竹治右衛門、上小川下小川組合草野正壽

功勞者十二名表彰
防護團解散す

前記警防團の誕生と共に自然消滅の平市防護團解散式は昨三十一日縣社子鍬倉神社での奉告祭後第一小學校庭で家庭防空群代表參列の下に擧行 開辭（四家副團長）遙拜 國歌齊唱、默禱、表彰感謝狀受與、青沼防護團長告辭、來賓祝辭（本田署長、野崎市會議長）受賞者惣代答辭（篠山第一校長）萬歲で滯りなく式を濟ませた、

草野主事退職
初代視學は長谷川氏
けふ市役所異動發令

市では今一日付廳内異動を發令した、勸業戸籍兵事課長草野喜彌氏は後進に途を開く故を以て依願退職 後任は元縣商工水産課勤務喜多方稅務出張所長増田忠氏（五二）初代市視學は長谷川政氏で引續き學務主任兼務、庶務工務兩課長酒寅之井助氏が工務課長を解かれて後任に土木主任技師神長倉秀造氏が拔擢された、銃後農業擴充を目指しての新技術員に市農會技手草野豐喜氏を農會囑託 其他主なるもの左の如く新採用は學務雇鈴木龜之助氏、會計雇馬目富代さん（故馬目市議の女）の二名である

土木技手（土木主任）佐藤淺次郎 市農會書記

（市書記産業）鈴木良平 市勸業書記 （市農會書記）渡邊佐七 庶務書記補 （會計）鷲 廣次 學務 同 （庶務）吉田久壽 文書雇 （學務庶務）青木弘 命各通知書勤務 工務雇 松浦章 市税雇 小谷義男 命各通書記補

來月迄に全部消化
卒業兒の就職斡旋に 春をいそぐ紹介所

今春小學校を出た兒童のうち雄々しく社會の荒波に乘り出す小戰士の斡旋については飯粒の如く去る二十四日の卒業式をまつていま片つ端から消化されてゐるが軍需景氣の春だけに各方面からの求人口は押すな〳〵の盛況振りでその追加募集に平職業紹介所もホト〳〵手を燒いて居る始末であるが先約の就職兒は大体來月一杯で片づけ殘餘分と其後の分も五月末までには斡旋を了してその成績を縣職業課に報告することになつてゐる

農學惣代選擧終る

農會總代人選擧は今一日一齊に執行されたが時局柄どこも自肅無競爭、平市當選者左の如し

△舊平町－猪狩忠喜、澤兎五六、關田千藏、吉田寅之助、松崎長太郎、荒川恒次郎、三森清重、諸橋國松、關内正一、△舊平窪－根本久光、金成清保、福田辰太郎、藁谷藤太郎、木田信一、鈴木義雄、吉野富衛、鈴木兼治、大山新一郎

希望の春

脂粉のちまたから憧れの學園へ
チカ丸姐さん急旋回

藝妓から女學生に急旋回！希望の春にふさはしいニュース一篇－花の新田町吉野家こと清野延由さん方からチカ丸と名乘つて、つい此の間まで左褄をとつてゐた安濃よしいさん（一九）は本縣福島生れ、小學校から福島家政女學校に一年學んだがお父さんに死なれ去る昭和十年六月仕込み子として同家にあづけられて修業、半玉から左褄をとるやうになつても『も一度學校に入りたい』と口癖に漏らしてゐた感心な女性、花年期明けにはまだ二ヶ年を殘す最近やつとそののぞみが叶ひ、親元身うけの形で自由の身となつたよしいさんはしばらく茨城縣助川の母親の許にゐたが東京某高等家政學校に入ることにきまつて大喜び、新學期を前にし數日前輝かしい希望に胸躍らせて上京した、吉野家主人清野さんの語るよしいさんのうれしい心の中

福島で家政女學校を半途退學したせいもあり常日頃からも一度學校に入りたいと心ひそかに念じてゐたやうだから、いまののぞみが遂げられてさぞ嬉しいだらう、なんでも世話する人があつて、某礦山の事務員になる前の一と勉強と聞いてゐるが、わしいことは判りません

松ヶ岡忠魂祭
◇來る十日擧行

春の行事－松ヶ岡公園忠魂祭は例年の如く來る十日午前九時から市、鄕軍分會、町村長會支會、郡聯合分會聯合主催で擧行、今次事變での合祀者は市から故大尉古泉物哉氏唯一人である

丹後澤また八田氏へ

『たびら名所』の遊園地丹後澤は貸借期間の滿了と共に各方面から借用希望者が出たので市當局で再入札の結果現借用者八田與八氏に落札近く土木委員會で正式決定を見る筈だが契約期間は五年間になるらしい

自肅！山神祭
各炭礦で申し合せ

地方各炭礦の年中行事の一つたる山神祭は來月十六、七の兩日に亘り各炭礦一齊に執行さるゝ、從來は各礦競ひ〳〵の餘興等に年一度の行樂氣分を爆發させたものだが今年は前線に活躍する兵隊さんの勞苦を想ひどこも質素に濟ませる申合せをした

平商修祓式
けふ一部竣功檢査に修祓式を濟ませた

平商業學校は市内堀江工業會社請負ひで新川南方に商友會の奔走による講堂と共に新校舍ほゞ完成來る五月十日の開校記念日をトし盛大な落成式を擧げる、今一日午後二時から委員其他關係者により一部竣工檢査並に修祓式を濟ませた

河原田元内相講演
（七日公會堂で）

市では豐間村結核療養所望洋莊竣功式に來臨の元内相河原田稼吉氏の來郡を機とし七日午後五時から市公會堂で講演會を開く、一般の來聽歡迎

陣中を聽く
（364）

皆さん心づくしの慰問袋を樂み待つ
紺屋町出身 馬目俊次君（通信）

皆樣相變らず元氣でお暮らしの御樣子海山越えて中支の街にて何よりと喜んで居ります。富代さんの懷しいお便り、智夫君の元氣な愉快な手紙、先日届き御返事書かうと思つてゐた處でした。欣ちやんのは未だです、それから新聞は今日も四通届きました、いろ〳〵御心配をかけて濟みません。皆さんの心を籠めた作つた慰問袋は未だ届きませんが樂しみにして待つて居ます。涎などを流しては帝國軍人の體面に係るですからじつと辛棒して居りますよ。兄さんも大變朗かな御樣子（記者註。本書狀は三月六日付、二月十六日義兄馬目雅治氏の長逝を知らずに書いたものである）大に張り切つて（略）只何よりも身体が大切ですからバイ一の方を適當に御願ひ申上げます、それから仙臺の兄上樣から先日御便りあり早速返事致しました。なるべく御世話になつた方には御禮狀を出し度いと思つて居りますが特にしなければならない人は御知らせ下さい、出來得る限り出しますから。

次に東郷庶務課長殿御榮轉の節は御禮狀をお出し下されし由有り難く思つてます。早速私からも御禮ひ狀を出します。新課長にも挨拶狀を出すつもりです、松崎樣にも航空便にて禮狀を出しました。

姉さんからお便りあつた三井榮一樣よりの慰問袋は今日、姉さんの手紙と一緒に届きました。本隊では私一人でした。早速戰友と仲良く喰べました、きせるに煙草あやめ、中々の思ひつきだと存じます。早速三井樣ゞ市長殿に禮狀を出します。

それから東日特派記者根本記者先月二十日我が隊の事務室を訪れました。腕章を見てそれとわかつたので度々御便りあつたので色々お話しをなし平の馬目雅治の弟である旨を告げたら非常に喜んで暫らくは兄さんの話が持てました（後略）

獻金

好間村北好間隅田川炭礦選炭婦根本シゲさん外三十三名は一月以來毎日の收入から五錢貯金、第三回分三圓十五錢を此程國防獻金

平市慶弔錄

△出生 研町折笠磯吉氏二女惠久子さん、三丁目大津賀幸平氏長女房子ちやん、鍛治町鈴木喜平氏長男侑信君、三丁目安齋鑑氏三女睦子ちやん、新川町鵜沼五郎氏二女正子ちやん

市内各校教員異動
昨三十一日一齊に發表

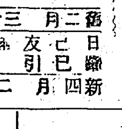
教育界に於ける春の恒例教員異動は昨三十一日を以て發表されたが平市關次係の如く新味たつぷりの人事振りを見せてゐる

第一 湯本 三瓶熈
第二 高田 同 山内平
同 平第四 同 堀部よや子
平第四 宮本 鈴木哲三
江名 第三 小松政一
泉 第四 松崎金松
第四 新山 菅波國治
青年學校
第二 塙田ちか
江名 第四 草野求
退職
第二 高木隆四郎
第四 鈴木てる子

中等教員の部

敍任
磐中 矢崎秀雄
磐女 青木千枝子
轉任
磐女へ 安積 山田英一
磐中へ 八戸高女 小松正躬
磐女へ 遠野中學 鈴木眞
囑託
磐中 藤田轉
磐女 堀口すい
出向
石川縣へ 磐中 熊谷三郎
退職
磐中 多田傳三
磐女 渡邊よし子
磐中 菅野貞雄

新四月二日 日曜 己巳 友引 房宿 舊二月十三日



鑑判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部神誠館

二日 ▲一白 事毎に思惑くの外れて失敗に終はり易き日▲二黑 何事に付けても面白くのび行く大吉日たり▲三碧 突擊的まう心は却てゐ破るの恐れあるべし▲四綠 元氣さかんなる日にして新しき事に尤も吉し▲五黄 窮園を改ため新規方面に進出するに吉き日▲六白 不自由勝の事のみ多く生じ來り過ぎれぬ日▲七赤 困ろう頑迷にかたむくときは四圍より故障を受く▲八白 正路をふみ自重して進む時は大吉と成る▲九紫 何事も細かき所に目を配りゐろうなき樣注意

三日 ▲一白 他人の言を妄信するときは意外の失敗あり▲二黑 目上の者と意見の合はざる事の生じ易き日▲三碧 誠意事に當らば意外の援助を得てよろこびある日▲四綠 運氣開發に向ふべき日徐ろに行動するが吉▲五黄 目前の感情に驅られて衝突し易し注意の日▲六白 引込み思案をせず秩序正しく進むに利あり▲七赤 身の分限を守り勇退時を以てすれば吉を得▲八白 一小事の爲めに進路を誤る勿れ進みて吉し▲九紫 悲運も志一つにて一轉して吉に向ふべき日

四日 ▲一白 考へ過ぎて理に陷り實情に遠ざかり行く日▲二黑 器用に任せよ分な小策をすれば失敗すべし▲三碧 今日怒りを告げざる事は企つべからざる日▲四綠 目上に睬り長上に聞きて獨斷を戒むべき日▲五黄 やりくり工夫事は損する恐れあり自重せよ▲六白 堅實に進めば大吉ふ事の事には大凶なる日▲七赤 企つる事小なるも追々大なるものと成るべし▲八白 欲多く功少きも後日の爲めと勵むべきこと▲九紫 苦去り何となく氣の晴れ晴れと働ける日

（小名濱測候所發表）
二日 滿潮 前一、五〇 後一、四五 干潮 前八、〇〇 後二、三〇
三日 滿潮 前二、二五 後二、四五 干潮 前八、四〇 後九、〇五
四日 滿潮 前二、四五 後三、三〇 干潮 前九、二〇 後九、五〇

男女夫婦相性 陰陽關係鑑定
陰陽學の根本義!!!人倫の基調！人生至上の要諦！生來干支の性格、氣質を察し融合調和する相性法人相容相の陰陽配出により健兒多産の國策に乘れ立身出世資產增殖は開運法夫婦相性の適否に因る新東亞に躍進する青年大陸の花嫁諸孃に特別鑑定
地理家相 夫婦相性 適業撰擇 奇門遁甲 招福開運
鑑定所 平市白銀町 石島陰陽館 電話六五〇番

むかし昔
その昔加賀百萬石いよ〳〵ハコが入のた殿樣が青田の稻を刈り取らせ田毎！田毎の水面にうつる月影を賞でたそうな こんな意味から名づけた田町の田毎へ
とうぞ御贔屓願ひます
御料理 平市田町 田毎 電話六三二番

優等賞受領
登錄商標 稻萬歳 稻妻
植田町 古川酒造店吟釀 電話一六番

難波醫院
内科 小兒科
入院應需 自炊の便あり
平市大町 電話五〇二番
（看護婦見習、看護婦募集）
醫學博士 難波睦

眼科一般 眼鏡檢定
重田眼科
平驛前通り 元貯蓄銀行跡
醫師 重田景治
平市田町一番地